

沼西 I 遺跡
沼西 II 遺跡

1992

前橋市教育委員会

柏川村出土文化財管理センター

序

沼西遺跡が所在する群馬県前橋市は、関東平野の北西端に位置し水と緑に恵まれた人口28万を有する県都であります。

市の歴史は古く、初めて市域に人々が住み始めたのは、今から2万年以上も前の旧石器時代からということが、発掘調査の結果分かっております。長い歴史の中でも古墳時代においては、古墳の数の多さから「東国の奈良」と言われ、律令時代においては、大国と称された上野国の中核が置かれた歴史上の要地となっており、市域は埋蔵文化財の密集する地域となっております。

このたび、前橋市教育委員会総務課より、市立桂萱東小学校校庭の拡張及びプール移転に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼があり、確認調査を実施しましたところ、平安時代の住居跡が確認されました。遺跡の現状保存を申し入れましたが、計画変更は無理であるということとなり、発掘調査を実施することとなりました。

調査の結果住居跡10軒、溝跡1条が確認され、住居跡からは、鎌・鐵・紡錘車などの鉄製品が発見され、貴重な資料を得ることが出来ました。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、物心両面にわたって協力いただきました総務課職員の方々、並びに酷暑の中発掘作業に従事していただきました方々に対し、深く感謝申し上げるとともに、本報告書が当地区の歴史を解明して行くうえで少しでも参考になれば幸いと存じます。

平成4年3月

前橋市教育委員会

教育長 岡本信正

例　　言

1. 本書は桂萱東小学校校地拡張及びプール造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。校地拡張に伴う道路新設部を沼西遺跡、プール造成予定地を沼西II遺跡とする。同一事業者による調査であり、隣接して関連もあり一冊の報告書とした。
 2. 沼西遺跡は前橋市堤町445-2番地に位置し、略称は2D-3とする。調査面積は100m²である。沼西II遺跡は前橋市堤町468番地に位置し、略称は2D-5とする。調査面積は70m²である。校地の北東隅と南東隅にあたる。
 3. 発掘調査は前橋市教育委員会文化財保護課で実施した。
- 調査 井野誠一・新保一美(文化財保護課)、和久井政夫、平井良彦、橋本誠次、田村聰史(総務課)、飯島勝亥
- 整理 飯島勝亥、大塚美智子、柴崎まさ子、赤城美代子
4. 調査・整理にあたっては教育委員会総務課、綿貫綾子氏(群馬町教委)のご協力を得た。
 5. 本書の編集・執筆には井野誠一があたった。
 6. 遺物及び関係図面は文化財保護課で管理している。

凡　　例

1. 本遺跡ではHを土師器使用の堅穴住居跡の略称としている。
2. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

遺構 1/40　　遺物 3/8　　全体図 1/500

(沼西)

遺構 1/30　　遺物 1/4・3/8　　全体図 1/200

(沼西II)

3. 方位は真北。

目 次

序	
例	言
凡	例
目	次

沼西遺跡

I 調査の経過.....	1
II 遺跡の位置と環境.....	1
III 遺構と遺物.....	3
1 竪穴住居跡.....	3
2 出土遺物.....	7

沼西II遺跡

I 調査の経過.....	11
II 遺構と遺物.....	12
1 竪穴住居跡.....	12
2 出土遺物.....	16
ま と め	
1 沼西遺跡.....	18
2 沼西II遺跡.....	18

写真図版

沼西遺跡.....	19
沼西II遺跡.....	22

沼 西 遺 跡

I 調査の経過

本遺跡地については、平成2年6月22日付で試掘調査依頼が提出され、同年7月12日に試掘調査を実施した。桂萱東小学校地拡張に伴う、つけかえ道路部の調査である。

試掘調査の結果開発予定地の東側より竪穴住居跡5軒が検出された。依頼者との協議の結果、調査については緊急調査として文化財保護課が調査を実施し、調査費用については依頼者の市教育委員会で負担することとなった。

調査対象となったのは地盤の掘削が行われる道路敷部分とし、他については盛土とのことで除外した。

調査は平成3年1月21日より29日まで行なわれた。

II 遺跡の位置と環境

本遺跡は赤城山南麓で、旧利根川の左岸にあたり、赤城山からの小河川により開かれた谷に面した台地状に位置する。

旧来本遺跡周辺はほとんど桑畠であり、集落も比較的少ない地区であったが、小学校建設、萱野団地建設（県企業局調査実施）により住宅が増加している。

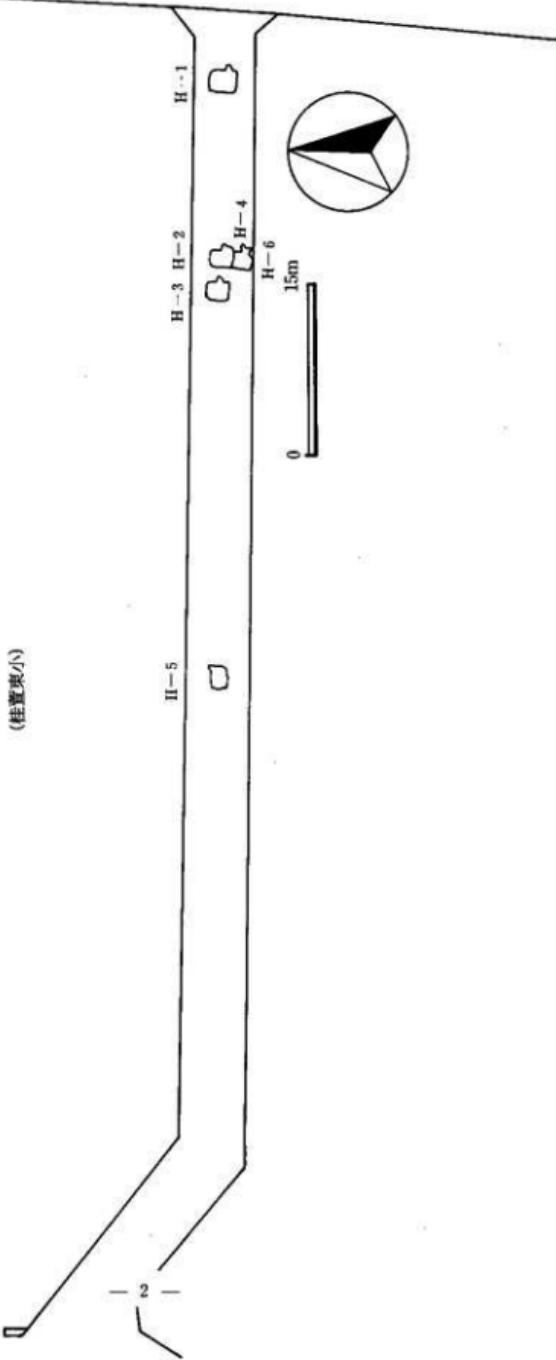
耕作土・覆土は厚く形成されており、遺構の遺存度は良好な地域である。

周辺の遺跡は谷の東向こうにあたる萱野団地遺跡が調査されている。他に調査例は多くないが、台地上に遺物の散布がみられ、周辺に多くの遺跡のあることが想定される。

沼西・沼西II遺跡を考えると台地の東面で集中して検出されており、沼西・沼西II遺跡は時期的にも近く、同一の集落に含まれるものと考えられる。遺跡の広がりは不明であるが、南を東西に走る産業線近くで平地式住居跡が検出されており、この付近まで続くと考えられる。



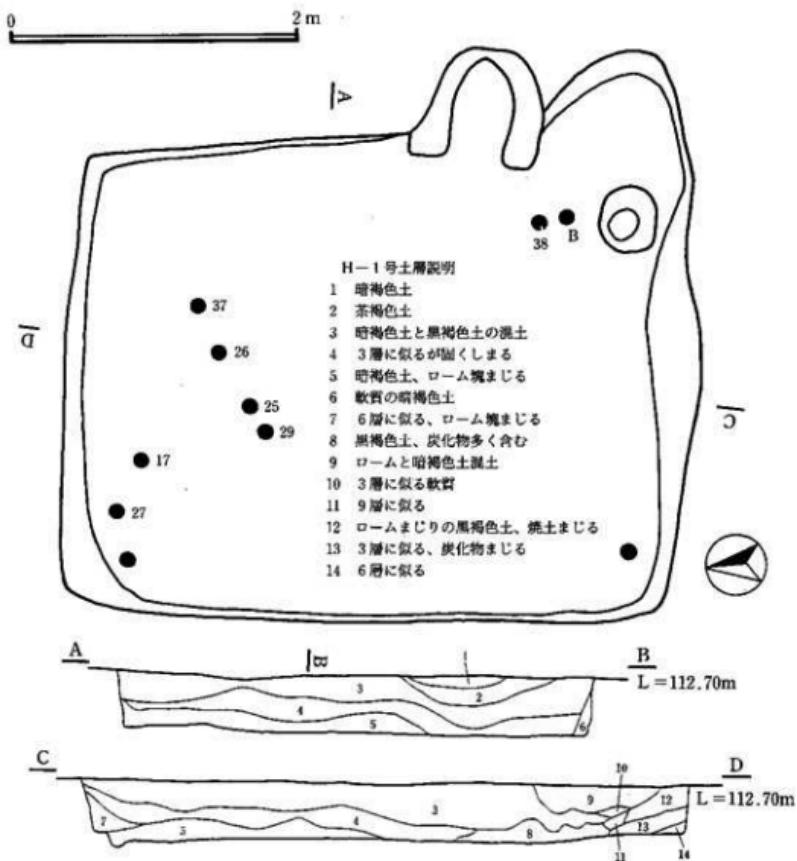
沼西遺跡全体図



III 遺構と遺物

1 穴居跡

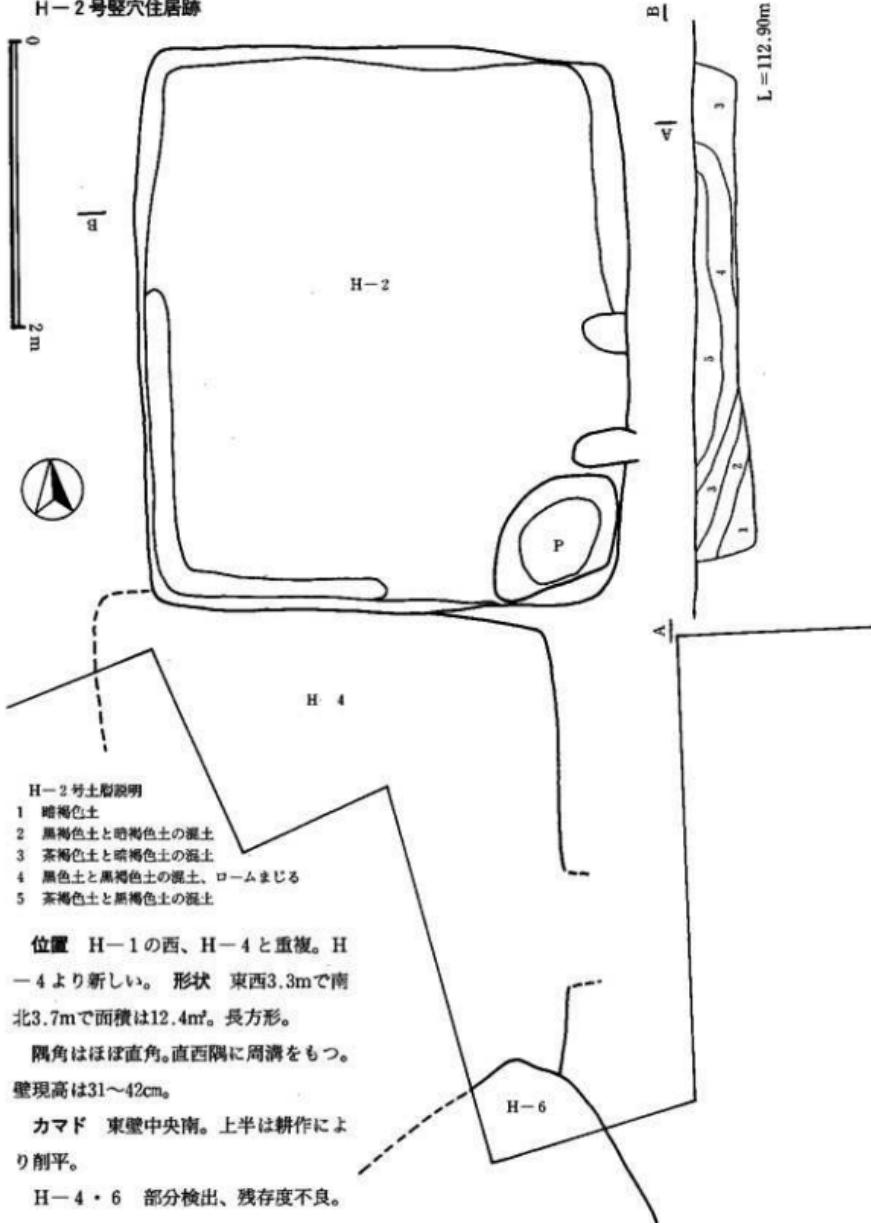
H-1号穴居跡



位置 道路予定地の東端より検出される。さらに住居跡群は東側に広がるものと考えられる。

形状 東西3.2m、南北3.9mの南北に長い長方形を呈す。隅角は直に近い、面積は13.2m²。壁はほぼ直に近く、深いしっかりした掘り込みをもつ。壁現高は34~45cmを測る。南東隅に張り出しを持つ。 カマド 東壁南側。両袖は粘土でしっかり作られていた。

H-2号竪穴住居跡



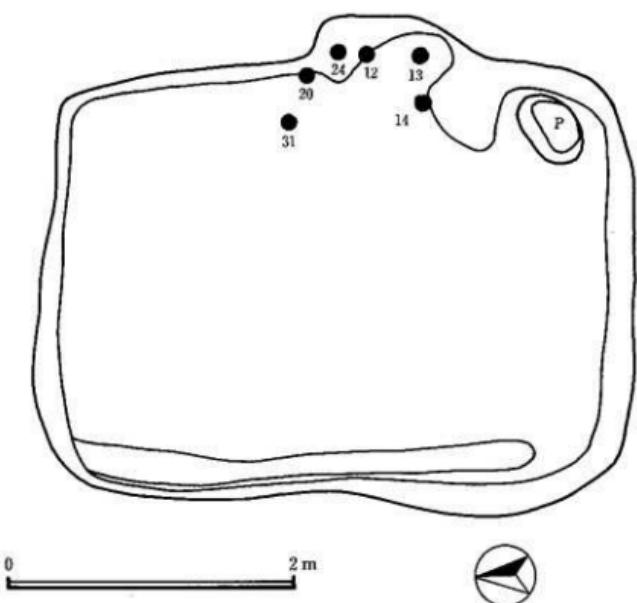
位置 H-1の西、H-4と重複。H-4より新しい。形状 東西3.3mで南北3.7mで面積は12.4m²。長方形。

隅角はほぼ直角。直西隅に周溝をもつ。
壁現高は31~42cm。

カマド 東壁中央南。上半は耕作により削平。

H-4・6 部分検出、残存度不良。

H-3号竪穴住居跡

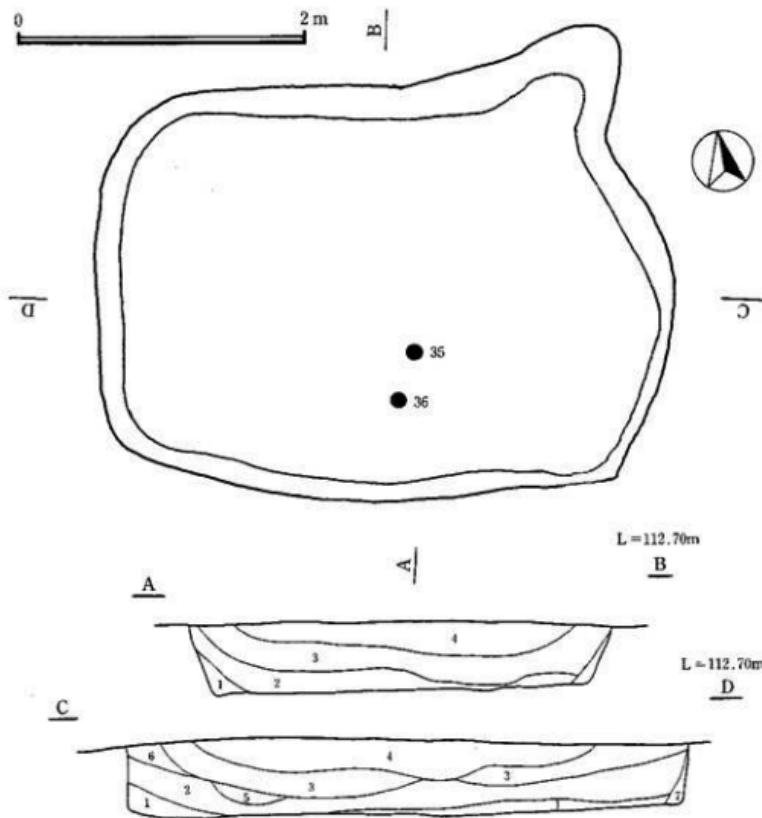


位置 H-2の西側。検出面では黒色土主体の埋土が良く確認できたが、上半は耕作による削平が進んでおり、カマドは明確には検出されなかった。

形状 東西2.8m、南北3.8mの南北に長い長方形。この遺跡に多くみられる形状。面積は10.6m²。壁はやや角度を持つ。西壁下に周溝をもつ。南東隅のピットは貯藏穴か。

カマド 東壁中央部。残存度不良。

H-5号竪穴住居跡

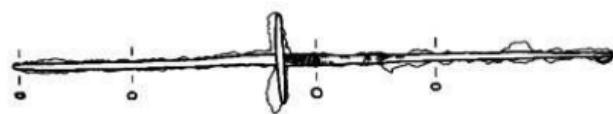


H-5号層説明

- 1 ロームと暗褐色の混土
- 2 黒色土と黒褐色土のブロック状混土
- 3 黒色土！暗褐色土
- 4 褐色土
- 5 ロームと焼土の混土
- 6 焼土
- 7 茶褐色土

位置 H-2の南、調査区外および、部分検出。

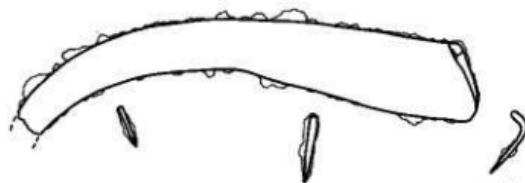
形状 現状から推定すると、東西3.1m、南北3.0m（現状）で南北に長い長方形か。面積は9.3m²以上。 カマド 東壁中央部。焼土塊が部分的に残存。



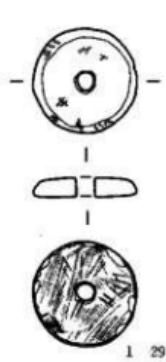
1-A



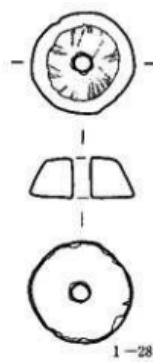
1-B



1-C



1-29

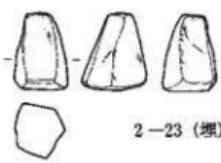
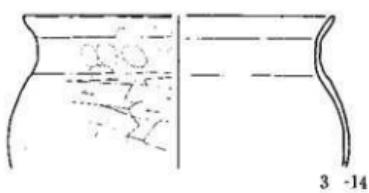
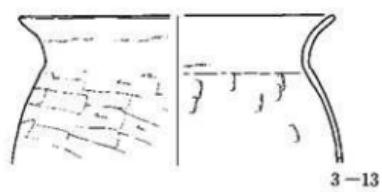
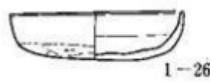
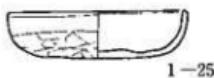
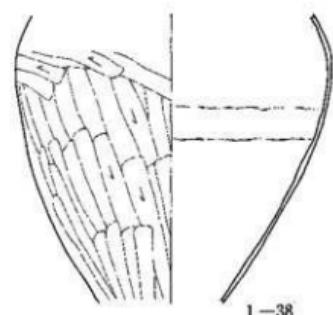
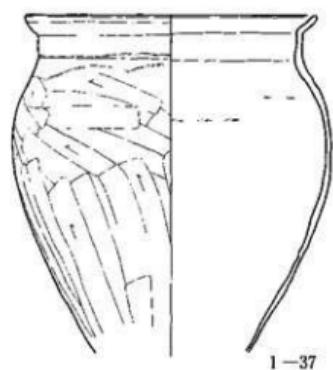


1-28 (拡)

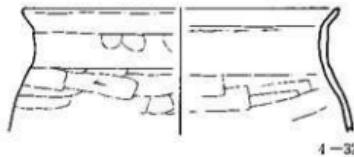
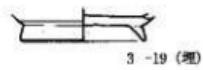
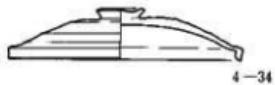
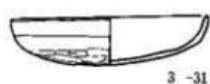
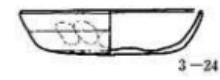
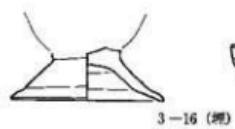
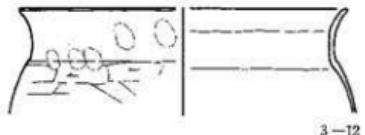
0

10cm

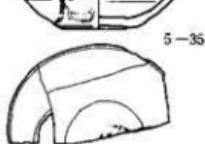
沿西遺跡遺物図版 (1)



河西遺跡遺物圖版 (2)



0 10cm



沼西遺跡遺物図版（3）

番号	器種	法量(①高さ②口径③底径)cm	技 法 等	胎 土	①色調 ②焼成 ③残存度
1-A	纺錘車	①31.3②4.1	先端にかえし、軸に加工跡		鉄製
1-B	鐘	①20.9②	3.1		鉄製
1-C	鍼	①6.8②3.5	③1.0		鉄製
1-17	土師壺	①2.8(現)②11.8	横ナデ		茶褐色
1-25	土師壺	①3.2②12.2	(外面)体部へラ削り、口縁ナデ		茶褐色 良 %
1-26	土師壺	①3.2②11.9	(外面)底部へラ削り、口縁ナデ		茶褐色 良 %
1-27	須恵壺	①3.6②11.8(堆)	ナデ調整		茶褐色 良 %
1-28(埋)	纺錘車	1.9×3.4×4.8	50g	密	灰 良 %
1-29	纺錘車	0.9×4×4.8	33g 頁岩		茶褐色 %
1-37	土師甕	①23.3②20.1	(外面)口縁横ナデ、体部へラ削り		茶褐色 %
1-38	土師甕	①19.7(現)	(外面)体部へラ削り		茶褐色 %
2-23(現)	砥 石				
3-12	土師甕	①7.1(現)②22.2	(外面)口縁横ナデ、体部へラ削り		赤褐色 %
3-13	土師甕	①9.9(現)②21.7	(外面)口縁横ナデ、体部へラ削り		赤褐色 %
3-14	土師甕	①10.2(現)②21.4	(外面)口縁横ナデ、体部へラ削り		赤褐色 %
3-16(埋)	土師甕	①8.6(現)②10.5	横ナデ		赤褐色 %
	附屬				
3-19(現)	須 恵	①1.8(現)②6.4	回転調整		灰 良 %
3-20	須恵壺	①3.3②13.8	底部調整	密	灰 良 %
3-24	土師甕	①8.6②13.4	(外面)底部へラ削り		茶褐色 %
3-30(埋)	土師甕	①3.3②12.3	(外面)底部へラ削り		茶褐色 %
3-31	土師甕	①8.2②13.3	(外面)口縁横ナデ、底部へラ削り		赤褐色 %
4-32	土師甕	①6.3(現)②21.4	(外面)口縁横ナデ、体部へラ削り		赤褐色 %
4-33	須恵甕	①8.6②12.1	糸切り跡、口縁横ナデ	良	黑灰 %
4-34	土師甕	①8.1②15.8	回転調整		赤褐色 %
5-35	須恵甕	①3.6②11.9	墨山「彦」カ、糸切り	密	灰 良 %
5-36	須恵壺	①5.9②14.0③7.8	底部調整	密	墨灰 良 %

H-6号竪穴住居跡

H-4の南に重複して検出。H-4より新しい。部分検出で詳細は不明。

H-5号竪穴住居跡

位置 H-3号のやや西。試掘状況からみると集落の西端か。

形状 東西3.7m、南北2.7mの東西に長い長方形を呈す。面積は10.0m²を測る。隅角はやや角度をもち、壁も角度をもつところがある。壁現高は40~52mを測る。

カマド 耕作土は厚かったが、深くまで耕作が及んでおり、カマドの残存度は良くなかった。

沼西 II 遺跡

I 調査の経過

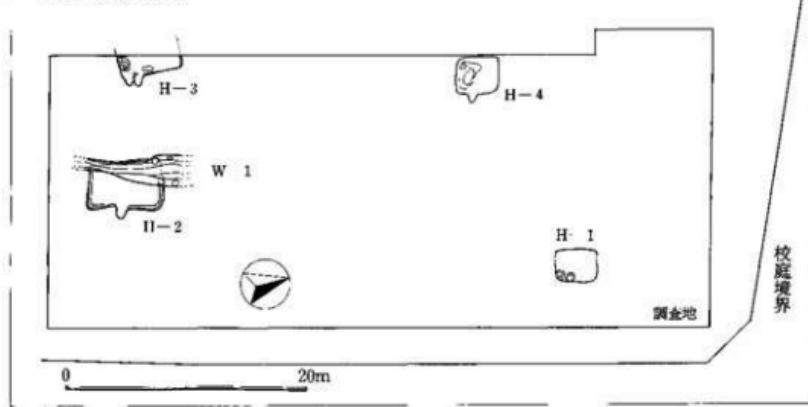
本遺跡は、前年度調査の沼西遺跡に隣接しており、同一遺跡内と考えられるが、手続き上別遺跡とした。桂萱東小学校プール建設に伴う調査である。

平成3年3月1日付で試掘調査依頼があり、3月7日に試掘調査を実施した。

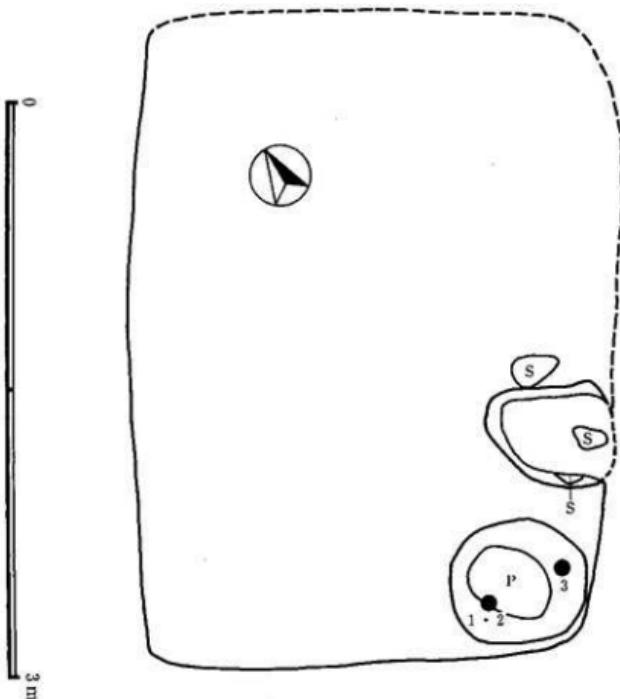
試掘調査の結果、開発予定地内より竪穴住居跡4棟及び河川一条が検出された。依頼者との協議の結果、調査については緊急調査として文化財保護課が調査を実施し、調査費用については依頼者の市教委総務課で負担することとなった。

調査地が学校の校地内であるため、調査は学校の休みの期間とし、冬休みに係る3月20日～3月30日までの約6日間で実施した。

沼西II遺跡全体図



H-1号竪穴住居跡



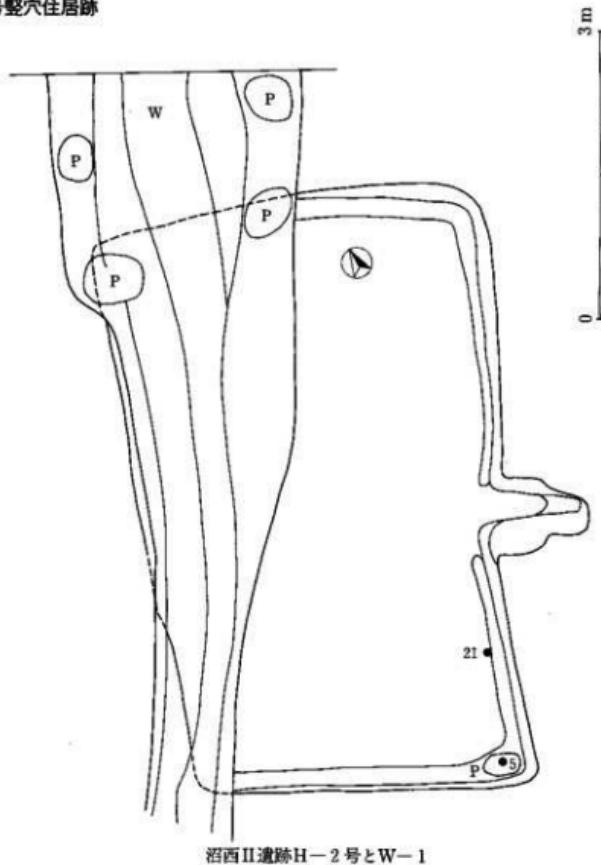
沼西II遺跡II-1号住居跡

位置 プール建設予定地の北東隅。校地の北東隅にもある。校地は北側ではやや削平、南にゆくとやや盛土をして造成したようで、本遺跡地で検出された住居跡のうち北側のH-1とH-4は壁の残存度が良くなかった。

形状 東西2.5m、南北3.4m。面積は8.5m²を測る。北側のH-1、H-4は小規模な住居跡である。壁の残存度は不良であり、全く削平されていたところもあった。

カマド 東壁・やや南。中位の石が7~8石検出されており、石組みとも考えられる。
南東隅のピットは貯蔵穴か。

H-2号竪穴住居跡



沼西II遺跡H-2号とW-1

位置 遺跡地南東隅。予想外の巨大な住居跡。この時期にはまれな規模。特殊な用途をもつか。

形状 東西3.6m、南北6.05mの南北に長い長方形を呈す。面積は21.8m²。壁は残りが良かった。壁現高約50cm。隅角はほぼ直角である。溝との重複部分以外では周溝が検出されている。

カマド 東壁中央部。炉床は壁内。他に特別の施設はない。

重複 溝はB灰層の堆積層を含む大量の砂層で埋められていた。流れは激しかったようで、流れによると思われるビットが4基検出されている。住居跡までは広かったが、住居内では急激に狭くなり南に続いている。通りにくかったと言うより住居埋土で軟かく通りやすかったためか。西壁を溝の西壁としていた。最下層に疊層。他は砂層の互層である。砂層でやや埋まったのちにB灰層B緑石層でほぼ埋まり、さらに砂層でほぼ平坦となり、現在に至っている。

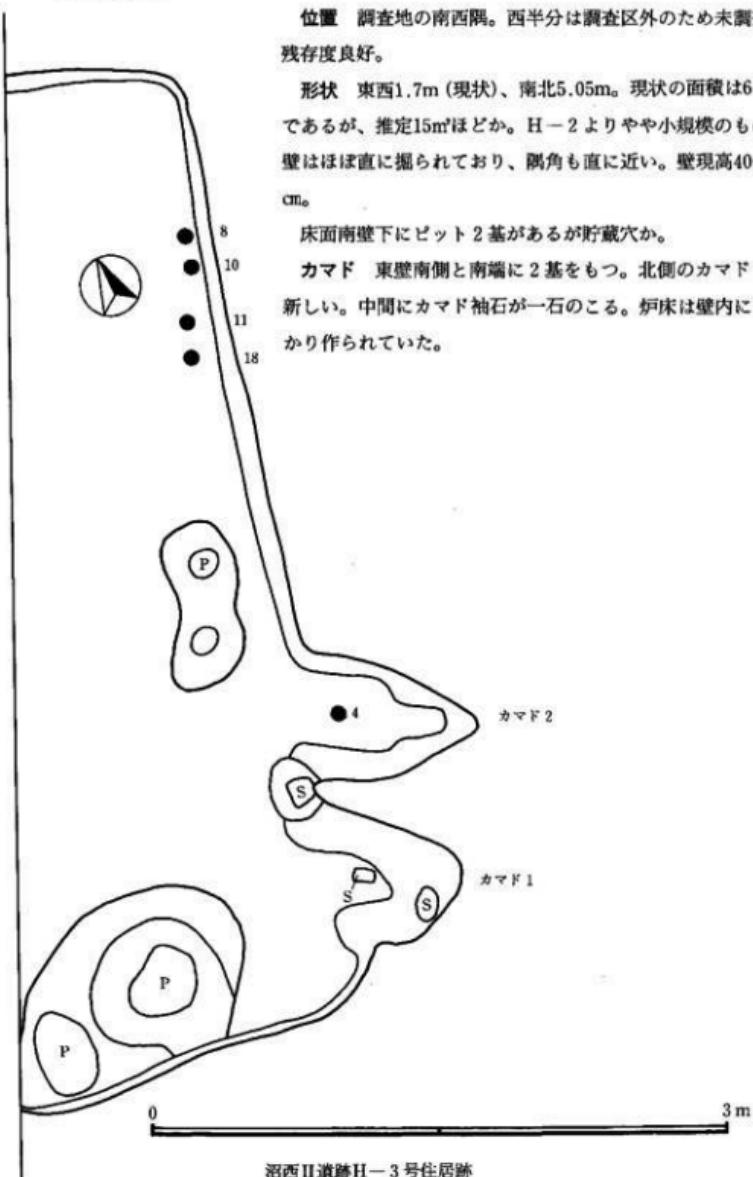
H-3号竪穴住居跡

位置 調査地の南西隅。西半分は調査区外のため未調査。
残存度良好。

形状 東西1.7m(現状)、南北5.05m。現状の面積は6.8m²であるが、推定15m²ほどか。H-2よりやや小規模のものか。壁はほぼ直に掘られており、隅角も直に近い。壁現高40~44cm。

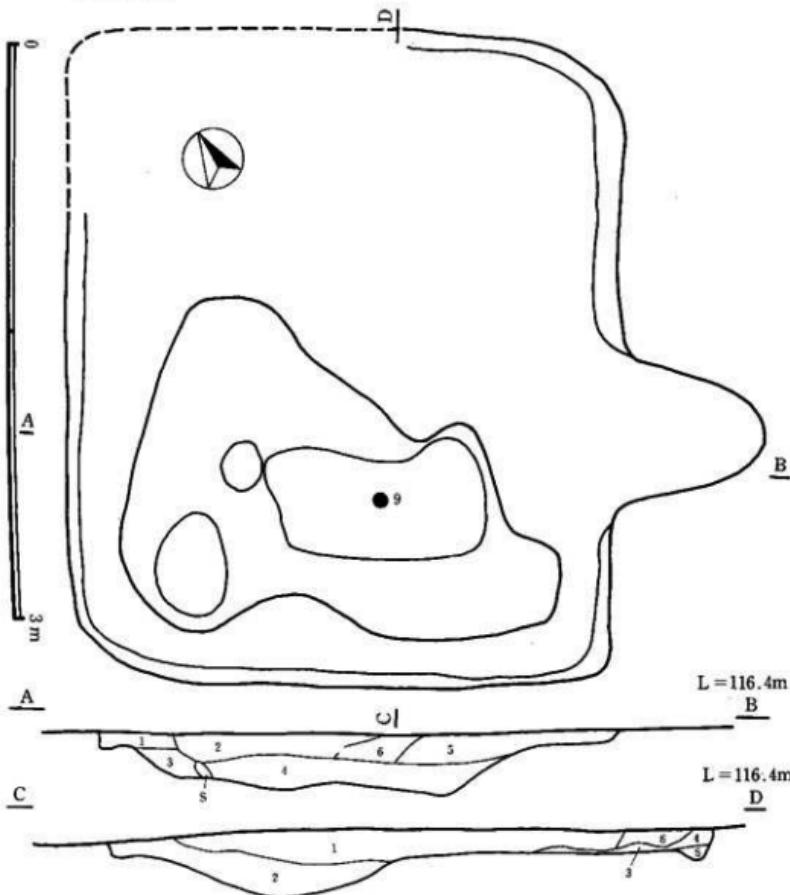
床面南壁下にピット2基があるが貯蔵穴か。

カマド 東壁南側と南端に2基をもつ。北側のカマド2が新しい。中間にカマド袖石が一石のこる。炉床は壁内にしっかり作られていた。



沼西Ⅱ道路H-3号住居跡

H-4号竪穴住居跡



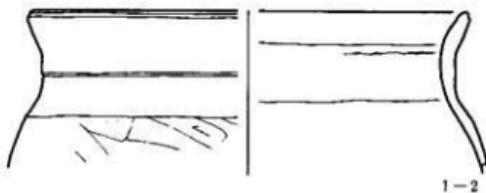
H-4号土層説明

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 黒色土と茶褐色土の混土 | 4 3に似る、黒味強い |
| 2 茶褐色土とロームの混土 | 5 黒色土と黒褐色土の混土 |
| 3 ロームと黒褐色土の混土 | 6 ロームと茶褐色土の混土 |

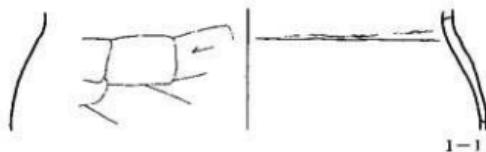
沼西II遺跡H-4号住居跡

位置 調査区の北西隅。削平が進んでおり、残存度は良くない。

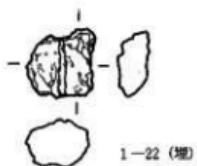
形状 東西2.8m、南北3.3mで、正方形に近い。面積は9.2m²を測る。床面南側はくぼみで検出された。 カマド 東壁南側。残存度不良。



1-2



1-1



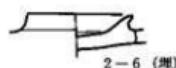
1-22 (埋)



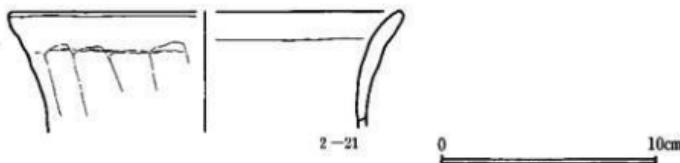
2-5



1-3



2-6 (埋)

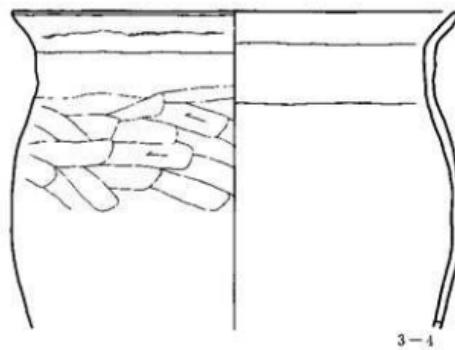


2-21

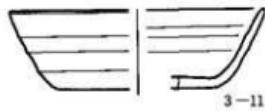
0

10cm

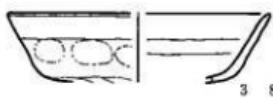
沼西II遺跡遺物圖版 (1)



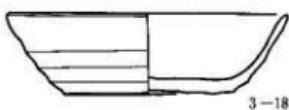
3-4



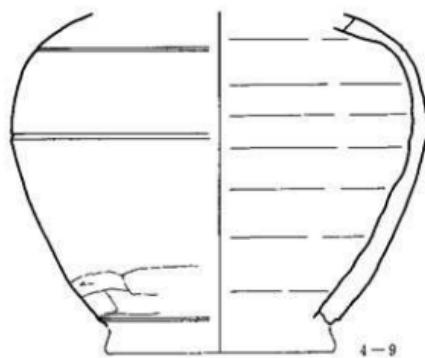
3-11



3-8



3-18



4-9



3-10

0 10cm

沼西II遺跡遺物図版 (2)

番 号	器種	法量(①器高②口径③底径)cm	技 法 等	胎 土	①色調	②焼成	③残存度
1-1	七輪甕	①6(現)②21.9(最大径)	(外面)ヘラ削り、口縁横ナデ	密	茶褐色	良	%
1-2	土師甕	①7(現在)②19.9	(外面)口縁横ナデ、体部ヘラ削り		茶褐色	良	%
1-3	七輪甕	①2.4(現)③6.0	底部調整		灰褐色	良	%
1-22(埋)	鉄サイ	3.2×2.9					
2-5	七輪甕	①2.5②11.0	L口縁横ナデ、底部ヘラ削り	密	茶褐色	良	%
2-6(埋)	須恵	①1.7(現)②4.8	底部調整		灰	良	%
2-21	七輪甕	①5.1②15.8	(外面)体部ヘラ削り	粗	墨灰色		
3-4	土師甕	①14.3(現)②20.4	(外面)口縁横ナデ、体部ヘラ削り		茶褐色		
3-8	土師甕	①3.2②11.9	(外面)口縁横ナデ、底部ヘラ削り	密	茶褐色	良	%
3-10	須恵	①1.4(現)	内側墨青「五」		灰	良	%
3-11	須恵甕	①3.7②11.7	横ナデ、底部調整	密	灰	良	%
3-18	須恵甕	①3.8②12.8	(外面)横ナデ、底部、糸切り	密	灰	良	%
4-9	須恵甕	①15.1(現)②10.6	内部輪筋み痕、肩下部ヘラ削り	密	灰	良	%

ま と め

沼西・沼西II遺跡からは、あわせて竪穴住居跡10軒が検出されている。時期にわけると、沼西遺跡の6軒の住居跡は9世紀中頃と考えられる。規模もほぼ似かよった住居跡群となっている。

沼西II遺跡は西側の3・4号住居跡が沼西遺跡とほぼ同じ頃と考えられ、1・2号住居跡は8世紀代と考えられる。

沼西遺跡では住居跡規模はほぼ同じであるが、沼西II遺跡では、2・3号住居跡が規模が大きく、1・4号は沼西遺跡か、それ以下の規模となっている。

3号と4号の住居跡の組み合せでは3号の規模が1.5倍ほどになり、集落内での階層の差を示すものとも考えられる。規模の他にカマドの造りにも差がみられた。

その差の傾向は1・2号住居跡の組み合せでもっとはっきりする。1号の面積が8.5m²に対して2号は21.8m²の規模をもつ。この規模は見学の小学生約100名が全員収容できる広さである。集落内での住居跡の組み合せとして考えると、長クラスの人物の住居とも考えられるものである。

今回の調査は限られた部分の調査であったため不明な点もあるが、集落を考えるうえでの一資料となるものと考える。

(井野)

写真図版(1)



沼西遺跡全景（西より）

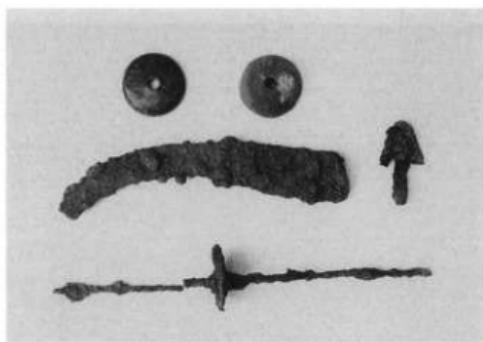


沼西遺跡H-1号住居跡

写真図版(2)



沿西遺跡H-1号軽車出土状況



沿西遺跡H-1号出土遺物

写真図版(3)



沼西遺跡II-1号鎌出土状態

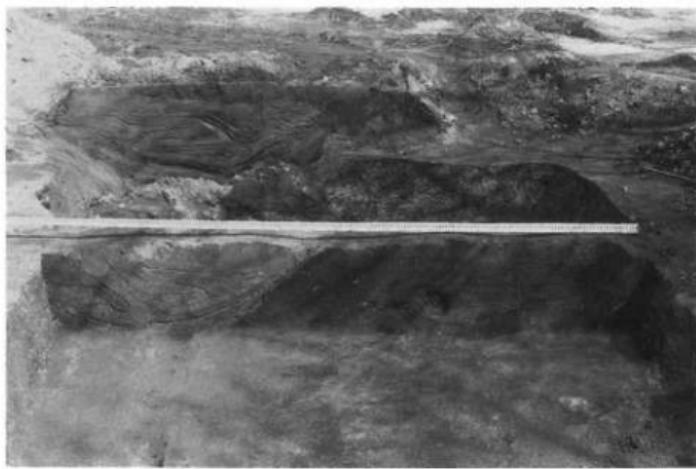


沼西II遺跡H-1号住居跡

写真図版(4)



河西II遺跡II-2号住居跡



河西II遺跡II-2号とW-1

写真図版(5)



沼西II遺跡H-3号住居跡



沼西II遺跡H-4号住居跡

**沼西遺跡
沼西II遺跡**

平成4年3月20日 印刷
平成4年3月31日 発行

発行 前橋市教育委員会
印刷 朝日印刷工業株式会社

柏川村出土文化財管理センター

